

平成 30 年度 事業報告

1) 登録者：平成 30 年度は 250 名の純増があったので、合計は 18,148 名である。

《純増の内訳》

一般	17 名	長崎東 LC	1 名	長崎ベーシック LC	2 名
諫早 LC	26 名	諫早セントクリアソン LC	7 名	大村中央 LC	5 名
おおむら桜	4 名	島原 LC	155 名	高来小長井 LC	8 名
日野江城 LC	10 名	佐世保中央 LC	1 名	松浦 LC	5 名
波佐見 LC	7 名	川棚 LC	2 名		
					合計 250 名

2) 摘出角膜・眼球について

(1) 摘出角膜利用状況は以下のとおりである。(平成 31 年 3 月 31 日現在)

献眼者数	5 2 名
摘出角膜数	1 0 3 眼 (1 名は片眼のみ摘出)
移植利用角膜数	5 3 眼 (10 眼は、昨年度以前の保存眼を使用)
保存眼数 (表層移植用)	3 4 眼
※ 2 6 眼は感染症検査陽性等で利用不可のため廃棄処分にした	

(2) 長崎県の角膜移植待機患者数 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

長崎大学病院	9 1 名	長崎医療センター	0 名
佐世保市総合医療センター	0 名		

計 91 名

【参考】角膜移植待機患者人数 (過去 15 年分)

平成 16 年度末：62 人	平成 17 年度末：24 人	平成 18 年度末：25 人
平成 19 年度末：24 人	平成 20 年度末：21 人	平成 21 年度末：17 人
平成 22 年度末：17 人	平成 23 年度末：19 人	平成 24 年度末：33 人
平成 25 年度末：51 人	平成 26 年度末：61 人	平成 27 年度末：73 人
平成 28 年度末：95 人	平成 29 年度末：93 人	平成 30 年度末：91 人

3) 角膜の広域あっせんについて

他アイバンクへ 7 眼の角膜をあっせんした。

福岡県医師会アイバンク	2 眼
久留米大学アイバンク	4 眼
京都府立医大アイバンク	1 眼

4) 会議・セミナー

(1)第 12 回理事会

平成 30 年 4 月 26 日 長崎大学病院会議室

(2)第 6 回評議員会

平成 30 年 6 月 26 日 ホテルニュー長崎

(3)第 13 回理事会

平成 30 年 6 月 26 日 ホテルニュー長崎

(3)第 40 回 九州各県アイバンク連絡協議会

平成 30 年 7 月 27 日 東京（宮城・浜崎）

(4)第 41 回 全国アイバンク連絡協議会

平成 30 年 7 月 27 日 東京（宮城・浜崎）

(5)第 36 回 アイバンクワークショップセミナー

平成 31 年 1 月 26 日 東京（浜崎）

(7)第 14 回理事会

平成 31 年 3 月 28 日 長崎大学病院会議室

5) 厚生労働大臣の献眼者に対する表彰について

厚生労働大臣の献眼者に対する表彰者は 52 名である。

6) 普及啓発活動等

(1)平成 30 年 7 月 1 日

メルカつきまちにて「アイバンクチャリティ メルカ歌祭り」が開催され、業務執行理事 上松聖典が、角膜移植とアイバンクについて講演した。

(2)平成 30 年 9 月 30 日

諫早市および大村市のアイバンク登録者を対象に目の愛護デー無料検診が行われ、27 名が受診した。

場所：諫早総合病院眼科外来

主催：長崎県眼科医会、長崎アイバンク

担当：出口裕子医師、大野あかね医師、深澤祥子医師、本多眼科 ORT 2 名、浜崎

(3)平成 30 年 10 月 8 日

諫早文化会館にて第 41 回 NPO 法人日本アイバンク運動推進協議会いさはや大会が開催され、業務執行理事 上松聖典が「角膜移植・アイバンク活動アップデート」について講演した。

7) その他報告

(1)平成 30 年 11 月 4 日

西諫早団地第一公園にて第 6 回顕彰祭が開催され、理事長 北岡隆が出席した。

(2)平成 30 年 12 月 21 日

長崎新聞文化ホールにて長崎北ライオンズクラブ忘年例会が開催され、評議員 隈上武志が出席し、長崎アイバンクへの寄附金を受けた。